

薬の伝言板

薬のかたち



No.294 2022年5月

丸子中央病院 薬局

薬の形には沢山の種類があります。投与される経路によって、口から飲む内服薬、体の外から作用させる外用剤、そして血管や筋肉に直接入れる注射薬の3種類に大きく分かれており、同じ内服薬でも錠剤やカプセル剤、散剤（粉薬）などがあります。さらに、錠剤の中にも色々な種類があります。薬の形のことを「^{ざいけい}剤形」といい、同じ成分でも剤形が異なれば作用の仕方は異なります。沢山の剤形があることによって一人ひとりに合った薬を選択し、より効果的な治療を行うことが出来ます。今回は代表的な内服薬の剤形についてご紹介します。

錠剤



薬効成分と賦形剤などの添加剤を混ぜ合わせ、圧縮して固めた固形状の薬です。薬効成分の特徴に合わせて剤形に様々な工夫がされています。

●錠剤の特徴

長所	短所
<ul style="list-style-type: none">・携行しやすく比較的長期保管できる・一定量を服用しやすい・外見で何の薬かを判断できる	<ul style="list-style-type: none">・量の微調整ができない・普通錠は嚥下機能の弱い人が服用しづらい

●代表的な錠剤の剤形

徐放錠	薬の成分がゆっくりと溶け出し、効果が長く続くことによって、服用回数を減らしたり、副作用を軽くしたりすることが出来ます。 アダラート [®] CR錠、ベザトール [®] SR錠、テオロング [®] 錠 など
腸溶錠	胃で溶けずに腸で溶けるよう工夫されており、胃を荒らしてしまう成分や、腸で吸収されやすい成分に使われます。 パリエット [®] 錠、バイアスピリン [®] 錠 など
口腔内崩壊錠 (OD錠)	口の中に入れると唾液ですぐに溶けるので、水なしで飲むことが出来ます。特に、飲込みが難しい患者さんや、水分制限が必要な患者さんに適しています。 ガスター [®] D錠、タケブロン [®] OD錠、リリカ [®] OD錠 など
舌下錠	舌の下に入れて溶かして薬の成分を吸収させる錠剤です。舌の下の粘膜から直接吸収されるため、速やかに吸収されるのが特徴です。 ニトロベン [®] 舌下錠、シクレスト [®] 舌下錠 など

カプセル剤



有効成分を含んだ粉末や液状の薬物を、カプセルに入れた薬です。粉末の薬物を入れた硬カプセルと、液状の薬物を入れた軟カプセルの 2 種類があります。

●カプセル剤の特徴

長所	短所
<ul style="list-style-type: none">不快な味やにおいをもつ成分の服用を容易にする大きさや溶出性が違う薬を 1 つのカプセルに入れられる	<ul style="list-style-type: none">カプセルが熱や水分に弱い錠剤に比べて値段が高価になる

硬カプセル剤 ネキシウム[®]カプセル、トランサミン[®]カプセル、サワシリン[®]カプセル、セルベックス[®]カプセル など

軟カプセル剤 アミティーザ[®]カプセル、エディロール[®]カプセル、エパデル[®]カプセル、ユベラン[®]ソフトカプセル など



カプセル剤は、水なしで飲んだり水の量が不十分だと、カプセルが咽頭などに張り付き、その部分の粘膜を傷めてしまうことがあるため注意が必要です。

散剤（粉薬）



粉末状、あるいは微粒状に製したもので、いわゆる粉薬と呼ばれるものです。

●散剤の特徴

長所	短所
<ul style="list-style-type: none">細かい投与量の調節が可能錠剤やカプセル剤に比べ早く体内に吸収される	<ul style="list-style-type: none">苦味、不快臭のある成分には適さない外見で何の薬かを判断できない

また、粉薬の中には以下のような工夫がされているものもあります。

顆粒剤	粒が大きくコーティングがされていて苦さを抑えたり、飲み込みやすいよう工夫されたもの。 アローゼン [®] 顆粒、シナール [®] 配合顆粒、マーズレン S [®] 配合顆粒、メラトバル [®] 顆粒 など
ドライシロップ	甘みをつけており、子供でも服用しやすい剤形です。そのままでも、水に溶かしてでも飲むことができます。 アレグラ [®] ドライシロップ、ナウゼリン [®] ドライシロップ、ケイキサレート [®] ドライシロップ など



現在日本では全部で 28 種類の基本となる剤形が使われています。薬の中には同一成分で複数の剤形を持つものも多いため、現在服用している薬を他の剤形に変えられる場合もあります。服用しにくい等、お困りの点がございましたら医師又は薬剤師にご相談ください。